

■ 巻頭言 ■

正しい知識とエビデンスに基づいた論争を、 そして検証の必要性

小 田 慈

岡山大学名誉教授

風疹の流行が報じられ、先天性風疹症候群の発生が危惧される状況が続いている。マスメディアのみならず social network service (SNS) による情報網の広がりにより、危機感は広く国民に認識されるようになってきた。しかし、本当に正しい情報がもたらされているのであろうか？

発疹を主訴に外来を受診する保育園児がいる。保護者：「保育園の先生から風疹が流行っているってニュースで言っていたので、風疹ではないかどうか診てもらってくださいと言われました。」、診察医：「お母さん、この子たちはちゃんとワクチンを受けています。今、気をつけないといけないのは、子どもたちではなく保育園の先生であり、お母さんやお父さんですよ！」このような会話、本学会員の中にも経験された方は大勢おられるように思われる。

そもそも出産適齢期にある成人における風疹流行の危険性は何年も前から指摘され（例：若年女性における風疹抗体保有率とワクチン接種。寺田喜平。小児科 45：1561-1567, 2004）、本誌にも多くの論文が掲載されている。15～20年ほど前には、接種年齢の移行期にあった人たちへのワクチン接種の重要性を訴える啓発活動が多くの自治体で行われたが、今日の状況を招いてしまっている。今になって抗体検査の無料化あるいはワクチン接種の無料化を提示している自治体もあるが遅きに失した感がある。

2015年8月に排除 (Elimination) が認定された

麻疹についても同様である。2008～2012年の5年間の臨時措置として思春期世代への2回目接種を呼び掛けたにも拘わらずである。成人での麻疹の発生が報じられても、多くの大人たちは自分のこととは考えず“子どもの病気、注意しなければならないのは子ども”とたかをくくってしまう。そしていつも犠牲になるのは麻疹に対する免疫力をもたない母親から生まれた乳児である。

2004年10月に札幌で開催された日本ワクチン学会で“はしかゼロアピール in Sapporo”が宣言された。また、同年3月に開催された“日本小児科学会主催の麻疹(はしか)公開フォーラム はしかゼロに向けて”では、当時の朝日新聞編集委員 田辺 功氏が“メディアから見たはしか—麻疹ゼロに向けて”と題して講演され、報道の在り方と報道機関と学術サイドが協力し正確な情報を広く国民に提供することが必要と、それまでのマスコミの対応の反省を含めて強調されている。

それから14年の歳月が流れたが、風疹や麻疹における現状はすでに述べたとおりである。この間、いくつかのワクチンが新たに定期接種化され、先進諸国とのワクチンギャップが解消に向かっているかの如くの報道もなされているが、決してそうとはいえないように思われる。定期接種への導入が始まった際、対象年齢をすでに過ぎてしまっているが、社会的にも医学的にも当然ワクチンを受けたほうがよい子どもたちへの対策は、行政サイドからは何もなされていないといっても

よいし、マスメディアも取り上げようとはしない。

“積極的勧奨を控える”と、ある夏の日に突然出された公文書に従い、2005～2009年の5年間にわたって、受けるはずであった日本脳炎ワクチンを受けていない年齢層がある。すでにこの年齢層の人たちの将来的な日本脳炎罹患の危険性を指摘する学術論文は発表されている。救済措置が取られてはいるが、風疹や麻疹の轍を踏まないような十分な注意が必要と思われる。さらに大きな問題はHPVワクチンである。こちらも現在は“積極的勧奨を控える”状態が続いている。この間にも年間10,000人を超える女性が子宮頸がんを発症し、約3,000人が命を落とし、さらに多くの子宮が摘出されている。ワクチンと健診で防ぐことのできる事態であるにもかかわらずである。

何故、世界中で推奨されているワクチンについて、我が国だけでこのように問題視されるのであ

ろうか。

Evidence based medicine (EBM) が最重要視される現代において、ワクチンについては、なぜか歴史的事実、統計学的事実、エビデンスが軽視されているように思われてならない。今日のワクチンをめぐる様々な問題の根源は、ワクチン接種に対する感情的な対応にあるように思われる。私たち医療者、行政、そしてマスメディアに要求される第一のことは、協力して日本社会に蔓延るワクチン接種に対する Attitude を正しい方向に導いていくことではなからうか。

“人類を救った最大の功労者は水とワクチン” (長崎大学小児科教授 森内浩幸先生) であることを忘れず、正しい知識とエビデンスに基づいた論争、そして検証が今後のワクチン行政に反映されることを望む。

* * *